

地域にはばたく市民パワー！



ところざわ倶楽部「広場」

所沢市民大学修了者の会 広報紙

2021年1月号(第144号)

発行責任者 佐藤 重松

木目込み人形

第十六期

並木 啓子様



撮影

仲山 富夫氏



謹んで新春のお慶びを申し上げます 新しい生活様式でコロナ禍克服の年に！

ところざわ倶楽部 会長 佐藤 重松

明けましておめでとうございます。

2020年はコロナ禍で明け暮れた一年でした。日常生活やサークル活動が自粛を余儀なくされた一年でもありました。そして、パンデミック（世界的大流行）は続いており、日本も収束の見通しが見えないまま新年を迎えることとなりました。先ず、地球規模で長期間蔓延し続けている感染症の早期収束を祈願すると共に、身近な処で「感染しない・感染させない」新しい生活様式で細心の防御を図りましょう。

明けて新年は、“禍を転じて福と為す” 希望の年に・SDGs の理解と参加の年に！

2021年は、世界が取り組む課題 SDGs（エスディーズ）＝持続可能な開発目標達成のために、官民あげて、団体個人を問わず、「この先の世界が今以上に良くなるために2030年までに世界の全員で協力して解決する」＝「誰も置き去りにしない世界を目指して」17の開発目標と169のターゲットが掲げられています。

地球規模の過去・現在・未来を重層的に見つめ、私たち自身がそのために何が出来るかを考え、微力乍ら実践する年でもあると思います。その意味で、ところざわ倶楽部の多くのサークルが、会員個人が、その方向で活動されて居りますことは輝かしく、誇らかに感じます。長寿社会を生きるも、私たちに残された時間は少ないけれど、次世代の未来のために、出来る事を出来る時に逃さずやる気概を以て、親として経験豊富な大人としてこのSDGsに参加し、2030年の日本や世界がどんな風景になっているか、皆さんと共に確認出来たならと思います。その日まで、皆様のご健勝を心より祈念致します。

所沢の説話を題材にして紙芝居を作りました

民話の会

民話の会は、民衆の中から生まれ語り継がれてきた所沢の民話や昔話、伝説を掘り起こし、学んだことを絵入りの語り文にして伝えることを目標の一つにしています。

今年で、会発足8年目を迎え、独自の語り文は四話となりました。

『カヤ湯』

昔、所沢は水の不便な土地でした。毎日、遠くの川まで何度も水を汲みに行くのが重要な仕事でした。農民達は、夏の作業後の朝はカヤで汗を拭き垢を落としながら、貴重な水を無駄にしないようにと大切に使ってきました。そのような水にまつわる昔の生活の話が旧島田家住宅前にある井戸の掲示板に書かれています。その内容を取りあげて昔話にまとめました。絵はところざわ倶楽部会員の田中建夫さんに描いていただきました。 仲山 富夫



『河童のお伊勢参り』

池原昭治(童絵作家)の話本から取り上げました。所沢の民話『河童の詫び証文』からの続きとして、河童三匹が人間に化けてお伊勢参りをするという珍道中の話に膨らませました。

「考えたことは、楽しいと笑えるように、物語の中で動く河童達を生き生きと動かせるかどうかと工夫をしました。絵も描いたのですが、変でない程度には出来たと思います。観客を楽しませる目的でしたが、実は書いている私、描いている自分が多いに面白がっていたことは事実です。実際、書き手が面白くないものは観客も楽しめる訳ないですね。良い経験をしました。また、書いてみたいと思っています」 新井 智子



『塚ノ越地蔵』

この話は、柳瀬地区の坂の下に現存する「道しるべのお地蔵さま」を建てた尼僧が主人公です。

絵を描いてくれた倶楽部会員の山本苗子さんが思い出話をしてくれました。「地蔵さんがあることを知り下見を実行。花と水を持参して心込めて一礼をした。今もある3本の道の2本は車が忙しく通っている。もう1本の道は昔のままと思える静かな道である。ご年配の男性が犬の散歩をしていた。この方は由来を知っているかな「聞いてみよう」残念！ご存知ない。やはり私たちが調べましょう」と。

地元の人から人へと伝手を頼ってお話を聞き、幸運にもお地蔵さまのお堂の再建時の記録まで見せていただきました。早々に語り文を仕上げ、山本さんに描いていただきました。人物の表情、朝焼けや夕日の色合いを工夫されて、尼僧のお話に相応しい紙芝居に仕上がりました。 薄井 文子



『たにしのやせ我慢』

市川栄一作『小江戸の民話』所沢の民話編の「たにしのやせ我慢」を読んで、知恵の働くタニシと駆けっこ自慢のタヌキのあり得ない組み合わせに民話ならではの魅力を感じました。絵は田中建夫さんにお願しました。

田中さんの感想、「主役は動物で、タヌキとタニシの奇妙な組み合わせである。そもそも顔の眼や口は感情表現に重要である。タヌキのように顔に眼や口を有する動物は擬人化して感情や動きを表現できるが、果たしてタニシは眼どころか顔も無いし動きも鈍い。仕方ないので実際にありえないが、身体を顔に見立てて眼を付け、おまけに冷や汗を拭くための手までするように見せかけてみた。見て楽しくなるような絵を試みたがどうだろうか」と。まさにご苦勞をおかけしました。 薄井 文子



生物多様性の保全の意義

——身近な環境問題——

(1) 生物多様性

生物多様性の保全は、地球温暖化の抑制と並び人類共通の解決すべき課題となっています。生物多様性を守る取り組みは1992年リオデジャネイロで開催された「国連環境開発会議」で「生物多様性条約」へ各国が署名したことから始まりました。我が国においては条約の締結をきっかけに「生物多様性基本法」が制定され、「生物多様性国家戦略2012-2013」に基づく取り組みが行われています。

生物多様性を維持・保全しなければならない理由としては「豊かな文化を育む」恵みや、「環境を調整し暮らしを守る」恵みをうけることにあります。生物多様性は、それぞれの地域で長い年月をかけて形づくられたことから、地域ごとに独自性を持っており、それぞれの地域で守る必要があります。また温暖化や熱帯雨林の消滅、海のプラスチックごみの問題など地球レベルの生物多様性の危機は、人間の日々の暮らしや企業の生産活動と関連しています。

(2) エコロジカルネットワーク (生物生息回廊)

野生の生き物(動物・植物)の多くは、生まれてから一か所に留まっているのではなく繁殖や採食等のために日、年、一生などの単位で、様々な環境を移動してくらししています。そのため、生き物が長くその地域で生息・生育できる様にするためには、同じタイプや異なるタイプの「生物生息空間」があり、その間を生物が移動できるようになっていることが望まれています。空間の構成要素は「核」、「拠点」、「回廊」に区分されています。



(3) 我々の取り組み

我々のサークル「所沢の自然と農業」は活動拠点として、市民大学ファーム(城地区)、山田ファーム(小手指地区)、トトロ21号地、柳瀬荘黄林閣、長野県高山村宮川農園があります。そのほかに冬場に陽子ファーム、伊東園の落ち葉掃きに参加しています。2つのファームではそれぞれ休耕地と市街地の緑地保全地で無農薬・有機肥料による野菜づくり、トトロ21号地では雑木林の保全活動、黄林閣では散策路の整備が目的ですが、他に竹林の伐採による林地の保全、常緑広葉樹の保全を行っています。それぞれの活動地域が生物生息空間として重要な役割をもっています。また、トトロ21号地では今年から林地にあるこなら、くぬぎの幼木を黄林閣で伐採した竹の中に土をいれ、それに幼木を植えて育てる試みや林地で採取したどんぐりを山田ファームで育てる試みをやっています。

昨年8月13日、我々のサークルの顧問をして頂いている淵野先生の講演会を開催しました。その中で先生は「新たな土地政策の方向性」について、“都市農地の位置付けを「宅地化すべきもの」から都市に「あるべきもの」へと転換することとして平成28年に都市農業振興基本計画が閣議決定された。また、人口増加局面では劣後されてきたが、自然豊かで良好な環境で健康に暮らすことが出来る社会の形成、自然環境の保全や再生、美しい景観の創出・保全を推進することが重要となる”と説明されました。落ち葉掃きを行っている三芳のさつまいも農家伊東園の伊東さんが「この地域を朝霞のようにしてはならないという思いで農業を継いで来た」とおっしゃっていました。伊東さんは地域の三富の農業を「日本農業遺産」に高められた方です。我々の活動が地域の環境を守り、生物生息空間を保全し、地域の価値を守る一助になっていることに活動の意義を感じています。

おすすめの1冊
第12回

「白磁の人」のように

20期 柳澤 千賀子

私は漫画が大好きです。小学生の時から今に至るまで読み続けています。もちろん、今の子供達(大人も?)が読んでいる作品ではありませんが(「鬼滅の刃」は知りません)。

大学が池袋だったので、巣鴨にいた姉の所によく泊りに行っていました。近所に貸本屋があり、泊りに行くとそこで必ず漫画を借りていました。

ある時「ゴルゴ13」の本を見つけた義兄が「娘達に見せてはいけないよ」(当時2人の娘は小学生)と私に注意をしました。ご存じだと思いますが大人の漫画でベッドシーンなども出てきます。後日また泊りに行くと何と「ゴルゴ13」があるではありませんか! 姉曰く、「パパが返しに行って、おもしろかったから別のを借りてきた」だと。それまで理屈っぽく話しにくい人だと思っていたのですが、急に身近に感じられるようになりました。

そんな私ですので読書量は多くありません。数少ない本の中で「白磁の人」という作品があります。陶磁器には興味を持っており、ちょうど陶芸を始めた頃でもあったので何の先入観も無く、ただ焼き物のタイトルに惹かれて読み始めました。

「民芸」という言葉の名付け親である柳宗悦の事は知っておりましたが、その彼に多大な影響を与えたこの本の主人公、浅川巧の事は何も知りませんでした。

朝鮮に渡っていた巧の兄、伯教(のりたか)から初めて李朝白磁を見せられた彼は一目で魅了されました。このような焼き物を作る人々に尊敬の念を抱き、対等な人間関係を築こうと思いました。しかし当時の政治状況がそれを許しませんでした。それでも彼は不当な事には抗い、自分の信念を通しました。日本人を敵対視していた朝鮮の人々はそんな彼を愛しました。相手に敬意を持って遇すれば心の交流は生まれる。

国と国の間にも、と大きな事は言いません。自分の美に対する感性を大事に、そしてその美を生み出した土壌、人々を敬愛することが良い方向に向かっていく事になるのだと思います。

さあ、もっともっと美を見いだせるように精進しなくては。



浅川巧

主人公、浅川巧の愛した李朝白磁・李朝膳



*浅川巧(1891~1931)は、朝鮮半島で総督府の職員として植林事業に従事する傍ら、朝鮮民芸・陶芸の研究家・評論家として朝鮮半島の陶磁器と木工を研究・紹介した。彼の墓はソウル郊外の忘憂里共同墓地にあり、当時の多くの日本人とは違って朝鮮人と対等につきあった人物の一人として知られる。

(Wikipedia より)

「戦争と平和！」
第27回（最終回）

米中新冷戦時代の人種・民族問題を憂う！

玉上 佳彦

かつての米ソ冷戦とは全く異質の米中新冷戦の時代が到来している。旧冷戦時代は、米ソの軍拡競争の様相を呈しており、キューバ危機などの一触即発の危険な状況があった。しかし、最近の米中対立は、核を中心とした軍事力だけでなく、宇宙、サイバー、AIなどの技術を駆使した科学技術戦争に突入していると思われる。政治体制の全く異なる二大国の技術を背景にした未知の戦争が心配されている。

その二つの大国の政治体制は全く異質だが、危惧せざるを得ない大きな人種・人種・民族問題を内包しているのは偶然だろうか。これに対するアメリカ、中国という異なるタイプの大国の独裁的政権による強引な政治手法には危惧を感じざるを得ない。



アメリカの人種問題

「Black Lives Matter」に象徴される黒人差別は、アメリカ建国以来の根源的な問題であり、トランプ大統領の白人至上主義により問題を更に煽り立て、黒人だけでなくヒスパニックやアジア系国民への差別も拡大している。これらの国内問題を抱えながら、アラブ諸国に波紋をなげかけるアメリカの対イラン政策やイスラエル寄りの姿勢は更に不安材料を投げかけている。バイデン政権でどう変わるかを見極めたい。

中国の民族問題

中国にとって、ウイグル族、チベット族、モンゴル族、朝鮮族などの民族の中国化（漢民族化）政策は、明らかな人権抑圧であり、独自の文化を破壊するものとして、目に余るものがある。香港の国家安全維持法に見られる一国二制度の形骸化に象徴される強引な統制は、更に、台湾の一国二制度化をも目論んでいる。習近平政権は内政干渉だと主張しているが、その中国と密な関係にあるロシアのプーチン政権も不気味な存在感を示している。

ロシアと旧ソ連邦との軋轢

日本から遠い国である為あまり知られていないが、ウクライナ、アルメニア、アゼルバイジャン、チェチェン、グルジアなどの旧ソ連邦諸国内での民族紛争は頻発しており、プーチンは強引な軍事力で抑え込もうとしている。

日本政府の問題

このような世界の大国の狭間におかれている日本が、座視しているのはいかかなものだろうか？ 喫緊のコロナ対策においても、無策で右往左往している菅政権には国外情勢を云々する資格はないが、世界第3位の大国（？）の日本はそのまま世界に全く影響力のない小国になりさがってしまっているのだろうか。日本は、地政学的にも米中間の調整をする立場にあるが、残念ながら否と言わざるを得ない。



難民・移民の受入拒否問題

日本政府は、技能実習生の受入れはしているが、技能実習とは名ばかりで、期限付きの単純労働であり、弱体化した単純労働を補完するためであり、これこそ、東南アジア諸国民の人権を無視した施策である。

日本の難民受入れは、2019年で1万人以上の申請に対して、認定したのはわずか44名（0.4%）で、欧米先進国より3桁少ない現状である。これは、政府に真剣に取り組む政治的な意図がないということが最大の問題だが、一般的に日本人には、他民族を受け入れるだけの協調性がないということに起因しているような気がしている。海外の「日本人会」に見られる閉鎖性がその典型ではないかと思う。この件は、次号以降に私見を述べてみたい。

（写真の展出：ネットより）

《新シリーズの提案》

2018年6月より2020年12月号まで「戦争と平和！」シリーズとして会員26名の方々に過去の戦争体験や平和への思いを綴っていただきました。ありがとうございます。

私達は過去の戦争を教訓にして、これからの平和な世界を希求するために、これまでの「戦争と平和！」シリーズを発展的に解消し、新たなシリーズ「世界の平和を考える（仮題）」を展開していきたいと考えております。皆様の積極的な投稿をお願いいたします

サークル活動報告

講座「万葉集」の開始

葵の会 水上 俊彦



(及川道之先生)

及川道之先生の講座「万葉集」を11月より始めました。昨年6月までの14回に及ぶ「古事記」に引き続き、大和歌を通して日本の古代文芸を学びますが広く古代史を学ぶ講座でもあります。漢字が伝えられて以降、日本書紀(720年)とともに古事記(712年)が編纂され、万葉集の一番後に置かれた巻第20の4517番の歌が越中の国庁で759年に大伴家持によって詠まれているので、記紀と併せて学ぶことが大切だと思います。

及川先生の第1日目の講義は万葉集巻一の最初に置かれた雄略天皇(第21代)の歌「籠(こ)もよ み籠(こ)もち ふくしもよ・・・」の歌で始まりました。『この歌が何故最初に置かれたか?』との質問からでありましたが、この歌は春の野辺で若菜摘みをする乙女に向かって天皇がその名を問うことで求婚の意を伝えたものです。

これを全体の最初に置いたのは結婚が子の誕生、さらには家の繁栄、延いては国の繁栄へと繋がると考えられていたからではないかということです。少子高齢化社会に対しての古代からの警鐘のように受け取れる内容の歌ではないかと感じました。

古事記、日本書紀には合計すると250の「歌謡」が載せられ、万葉集の4517首を含めてその多数が現在の短歌と同じ5,7,5,7,7形式をとっているとのことで、古代人の間に既に広く膾炙(かいしゃ)していたことは非常な驚きであります。

また令和の元号は従来のように中国古典からではなく、初めて日本の古典である万葉集(巻五)を典拠にしているということは誠に喜ばしい限りと思います。



及川先生には、本年度10回ほど万葉の世界について語っていただく予定で楽しみにしています。

アジアの諸問題で熱く盛り上がっています！

アジア研究会 松尾 基昭

アジア研究会は玉上代表のリーダーシップの下で30名を超える会員で月1回情報交換を兼ねた勉強会を開催しています。

アジア全般に関わる政治、経済、文化、歴史問題等から将来像を含めた日本の有り様を色々な角度から議論し、会員相互の懇親と見識の拡大に努めています。会員の中には単なる知識だけでなく、アジア地域での滞在経験などを有する方も多く、迫力のある興味深い議論がなされています。



(活動風景)

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け3月から6月の4か月は休会としましたが、7月以降は感染対策を講じた上で通常通り開催してきました。休会中でも、今年度のところざわ倶楽部の「離れてもつながる」の方針を先取りし、Zoomを活用したミーティングや飲み会にも早くからチャレンジしました。

最近では、世界経済だけでなく政治的にも存在感を増してきている中国に関わるテーマ「中国三峡ダムの報告」や「香港問題」、「米中間でどうなる台湾問題」、「米大統領選後のアジア問題」、「“中国”の形成～現代への展望」等を取りあげてきました。これからも、アジアを含む世界の先行き不透明感が強く、当研究会もそれに比例して増々熱く盛り上がるのではと期待しています。

アジア、世界に向けて熱く語りかけたい方には、絶好の機会だと思いますので是非、本会へ参加をおすすめします。

サークル活動計画

興味のある活動に参加してみませんか？

<p>1. 葵の会 (水上 俊彦 080-6855-5868) 1月15日(金)中央公民館で予定しました及川先生講義(万葉集③)及び例会は新型コロナウイルス感染予防のため、中止いたします。 2月12日(金)中央公民館8・9号室 13:00～13:30 受付・準備、13:30～15:30 講義(万葉集④)、15:40～16:40 例会</p>	<p>8. 所沢の自然と農業 (稲村 洋二 2992-1751) 1月14日(木)10:00～ 新所沢公民館5・6号室 定例会 1月15日(金)9:00～12:00 伊東園枯れ枝拾い。 1月19日(火)9:00～12:00 柳瀬荘黄林閣散策路整備。 1月22日(金)9:00～12:00 柳瀬荘黄林閣散策路整備 1月23日(土)9:00～12:00 伊東園落ち葉掃き</p>
<p>2. アジア研究会 (玉上 佳彦 090-2497-1076) 1月20日(水)13:30～16:00 中央公民館8・9号室 定例会 テーマ:政治家「後藤新平」を語る 森井会員による報告と討論 2月17日(水)13:30～16:00 中央公民館8・9号室 定例会 テーマ:未定</p>	<p>9. 野老澤の歴史をたのしむ会 (大館 徹 2924-3010) 2月4日(木) 9時10分(所沢駅西口集合)～12時40分 八国山散策と神社仏閣巡り。 2月18日(木) 航空公園の歴史探索</p>
<p>3. 活いきシニア福祉の会 (川上 紀春 090-5573-2548) 1月定例会は、緊急事態宣言中につき中止します。 2月24日(水)13:00～15:00 生涯学習推進センター 定例会(予定)</p>	<p>10. ドラマティック・カンパニー (高橋 信行 090-9393-6238) 1月23日(土)10:00～12:00 中央公民館学習室3号 「ヘンリー4世」朗読(継続) 2月6日(土) 10:00～12:00 中央公民館学習室3号 2月20日(土) 10:00～12:00 中央公民館学習室3号 「ヘンリー4世」朗読(継続)</p>
<p>4. 楽悠クラブ (田村 健一郎 2949-3434) 1月26日(火)13:15～16:30 中央公民館3階8・9学習室 「ペラ 夕鶴」木下順二 作、團伊玖磨 作曲・指揮 鮫島有美子主演、新宿文化センター1994年3月 2月9日(火)13:15～16:30 中央公民館3階8・9学習室 「題目 未定」</p>	<p>11. 懐かしの映画・鑑賞会 (二上 拓夫 080-1250-6151) 1月26日(火)の上映会・活動は、緊急事態宣言中につき中止します。 次回上映会2月9日(火) 洋画「シャレード」 リクエスト作品</p>
<p>5. 食を通して所沢を知る会 (木下 みえこ 090-7272-6752) 1月19日(火)10:00～13:30 むい食堂(04-2994-4893) 定例会・その他 2月16日(火)10:00～12:00 ふらっと(会議室) 発酵食品についての講演会(予定)</p>	<p>12. 脳活サークル (加曾利 厚雄 2939-2308) 1月18日(月) 午後1時より国立演芸場・「落語を聴く会」 新型コロナウイルス感染拡大により中止を決定 2月22日(月)13:30～15:30 未来館・多目的室4号 会員による講座「アルツハイマー病、最新の革新的治療プログラム」講師:鶴野沢実豊氏</p>
<p>6. 地球環境に学ぶ (中島 峯生 2928-1161) 1月19日(火)9:00～11:00 新所沢東公民館 研修室 定例会 ①討論会「サークル環境宣言」②持寄り情報、他 2月16日(火)9:00～11:00 新所沢東公民館 研修室 定例会 ①討論会 ②持寄り情報、他</p>	<p>13. 傍聴席 (石堂 智士 2947-0835) 1月18日(月) 中止 緊急事態宣言により、1月テーマは2月へ延期 2月15日(月) 新所沢東公民館予定 テーマ未定</p>
<p>7. 所沢シニア世代地域デビュー支援の会 (田口 元也 90-9820-5668) 1月20日(水)13:15～15:00 中央公民館 学習室3号 定例会「コロナ禍で学んだこと・他」 [SP チアダンス練習日] 見学大歓迎 1月23日(土)13:30～15:30 松井公民館ホール 2月13日(土)13:30～15:30 中央公民館ホール</p>	<p>14. 民話の会 (仲山 富夫 090-3902-0283) 1月22日(金) 中央公民館 定例会 緊急事態宣言中につき中止 2月19日(金) 定例会(予定)</p>
<p>理事会報告 12月14日に理事会を開催しました。 14期総会の反省と意見を検討し、新年度方針にもとづき、コロナの状況に応じて柔軟に事業計画を実現していくことを確認しました。 ・文芸講座の2元方式(リアルとオンライン)開催を試みる。 ・3密を回避した屋外イベント(民話の会現地巡りやカルチャーパーク活動など)参加を検討する。 ・ホームページ上で、肩ひじ張らないメール掛け合いのできる</p>	<p>コーナー設置を検討する。 ・各サークルの活動を動画でYouTubeにアップして、他のサークル会員も見られるようにする。希望サークルから順にアップしていく。 ・PC相談会を継続する。1/25、1/27 ・倶楽部年会費は、各サークルの協力のもと4か月かけて集金する。 ・次回理事会 1月18日(月) 10時～ 新所沢東公民館</p>

みんなの広場 第28回

アジア研究会
中村静子

～この一年～

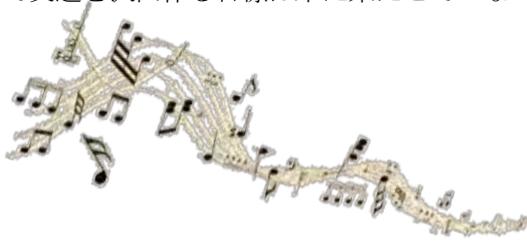
私は旅好きである。2020年は1月の沖縄旅行で幕開け。未だ見ぬ首里城を訪れる予定が、旅行手配後に城は焼失し、大戦後のような悲惨な姿を見学する羽目に。

第二の目的は斎場御嶽を訪れて祈りの島・久高島を崇めること。こちらはシーズンオフの寂々とした中、連続と受継がれる信仰との邂逅を果たせた。

2月はクロアチアのオパティアに。コロナは未だ安全とされていたが、防護服を着た空港係員の出迎えには驚いた。オパティアはハプスブルグ家所縁のリゾート地で様々な有名人も訪れている。マーラーは第4と第6交響曲の一部をこの地で書いた。アドリア海の静かな波を眺めていると、第5交響曲のアダージェットが聞こえてくる様であった。

帰国直後にコロナが拡大し、洋行していたなど口外出来ない状態に。その後、緊急事態宣言で仕事も趣味の音楽も自粛となり、自宅に籠って描きかけのクリムトの模写や古文書の解説などで日々を送った。

やがて仕事が再開して今に至るが、ところざわ倶楽部で友達を沢山作る目標は未だ果たせていない。



「むさし野俳句会」も新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言以降なるべく短時間で句会を行うようにしております。しかしながら、高齢化には逆らえず最近メンバーが減少しています。第一火曜日の九時三十分から行いますので左記三名の者に「照会下さい」。

連絡先 小林 2996-4941 井出 2944-9833 海老澤 2922-0259

むさし野俳句会 (令和三年一月) 作品抄

下山道花ひいらぎの香に満てり	小林 典子	枯木星先に逝くのが君なんて	平栗 彰子
団栗や踏みしだき行く木の根道	佐藤 八郎	冬の日の面会十分兄見舞ふ	宮本 信生
校庭に昨日のままの落葉籠	白神 恵子	夫の作る餃子勤労感謝の日	荒幡 千鶴子
小流れに大根洗ふ蕪束子	高梨 千代	背後から息づくジョガー十二月	井出 昇
落人の越えし峠や冬葎	高橋三加子	岳父との炬燵将棋に待ったあり	海老澤 夢之助
安眠は命のよすが布団干す	利根川啓一	冬薔薇若き女将のよく笑ひ	小林 貞夫
虎落笛もかくやとあらむ馬頭琴	中嶋 弘子	木の葉髪手のひらほどの阿六櫛	鈴木 征子
とびきりの秋刀魚で祝ふ誕生日	橋本 佑子		



《編集後記》

新年あけましておめでとうございます。コロナ禍の中で令和3年も静かに開けました。初詣も新年会も無く、不要不急の外出は控え、ただただコロナ感染の拡大を収めるため自粛生活を続けている日々です。

考えてみればこのような新年はあったらどうか、戦時下に生を受け、ある意味では高度経済成長期、バブル期、日本の安定期を経験して来た我々世代には、信じがたい世の中になって来たなど実感しています。

ところざわ倶楽部に眼を転じれば、各行事、活動も中止、自粛の歳月が昨年来続いています。この耐乏生活を如何に生きていくのが今年の課題です。私の所属する葵の会も開催すれば出席者は予想以上に多く、アジア研究会は中国、韓国問題を初め活発な議論が行われています。令和3年、春ごろにはコロナ問題も落ち着き、早く本来のところざわ倶楽部の姿に戻れたらと念願しています。(池田 記)

「広場」問合せ 玉上 佳彦 (090-2497-1076)

川柳 (五十八) 作品発表 選 中島峯生

課題 「帰る」

地球なら帰るところはみなわが家
今帰るどこにいるのか待ちぼうけ
子が帰省卒寿の母に笑顔でる
また飲んだ帰宅の恐怖つい忘れ
ご帰還はあなたの所じらせずに
道草を食って帰った小学校

「自由題」

〇〇に行ってきたよとまた自慢
感染が人のつながり差し止める
ほんのりと紅さし春を待つ二人
口論でそつと逃げ出すイエスマン
曲者目怒りが過ぎて笑うのみ
新型コロナ世界を一つ功労者



地球なら帰るところはみなわが家	突拍子
今帰るどこにいるのか待ちぼうけ	りんご好き
子が帰省卒寿の母に笑顔でる	どうし
また飲んだ帰宅の恐怖つい忘れ	縄文人
ご帰還はあなたの所じらせずに	海ささる
道草を食って帰った小学校	鼻・鬚

次回 (第59回) 課題「家庭」そして「自由題」
締切り日: 1月20日、担当中島まで、どなたでも
宛先 mh-naka@jcom.home.ne.jp Fax 04-2928-1161